

【10 阿蘇市 Aso City】



草千里展望所から

阿蘇市では、北外輪山の二重峠やツームシ山、中央火口丘(阿蘇五岳)の高岳や中岳、杵島岳、米塚や草千里展望所から、白川流れる熊本平野・金峰山系越しに“[東面の雲仙岳](#)”が眺望できます。↑の写真で見られるような雲仙岳～金峰山～阿蘇山(高岳)の火山列のラインや、これらの山々と古代創建の神社・仏閣が形成する[歴史的な大三角形](#)(※阿蘇地域のページ参照)のラインを、各所から視認することが可能です。

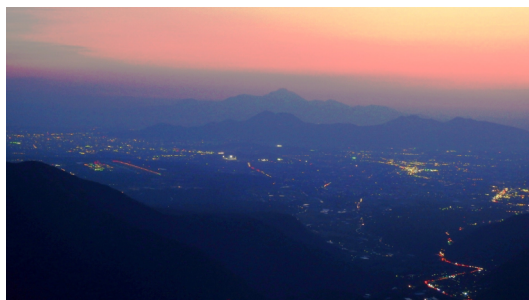
九州を旅した江戸後期の多才な知識人・頼山陽(漢学者、歴史・文学・美術など多方面で活躍)は、佐賀・長崎・天草と巡りながら雲仙岳を漢詩に歌いましたが、阿蘇北外輪山の二重峠から雲仙岳をはじめ西九州の山々を眺望して漢詩を歌い、山々に別れを告げています。この二重峠は、豊後街道(大分市～竹田市～阿蘇カルデラ～熊本市)の道中にあり、幕末に勝海舟・坂本龍馬の一行が江戸から長崎に出張した際には、この豊後街道を通り、有明海を渡って雲仙岳山麓の街道を通り、長崎に到達したとされています。

阿蘇市内のカルデラ底を東西に走る国道 57 号線、そして宮地から分岐して北上する県道 11 号線(やまなみハイウェイ)は、もともと阿蘇くじゅう国立公園と雲仙天草国立公園をつなぐルートとして、別府観光の父・油屋熊八氏が提案した九州横断道路(別府市～くじゅう～阿蘇カルデラ～熊本市～雲仙～長崎市)の一部となっており、阿蘇山と雲仙岳のつながりを感じることができる道路です。

市内の阿蘇谷を流れる黒川は、南阿蘇村の南郷谷を流れる白川と合流し、立野峡谷・熊本平野を通過して有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を白川や緑川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、阿蘇市内を旅してみませんか？

●阿蘇市の観光情報はこちら ⇒ 阿蘇市観光課 <http://www.city.aso.kumamoto.jp/tourism/>



草千里展望所から